

楽しみながら人間関係づくりに役立つ

10分でできる年度始めの自己紹介活動集



新年度のスタートは、どの子ども楽しみや期待とともに、不安や緊張でいっぱいです。この時期の人間関係づくりは、**不登校の未然防止**の視点からも、極めて重要なものです。そこで、① **子ども同士の間関係づくり** ② **教師と子どもとの人間関係づくり** に役立ち、しかも短時間で簡単に行える自己紹介の活動例を紹介します。

自己紹介は、**自分を相手に知ってもらえる機会**であると同時に、**相手のことを知る機会**でもあります。

お互いの人間関係を築くための第一歩として、意味ある活動にしたいものです。

新中学1年生の学級や、**クラス替え後**の新しい学級はもちろん、**持ち上がり**の学級においても、新たな気持ちで、よりまとまりある学級づくりのために実施することをお勧めします。とくに中学校では、教科担任ごとにやり方を変えるなど、工夫して行うとよいでしょう。

宇都宮市教育センター / 不登校の中1ギャップ対策プロジェクト

1 となりのとなり

- 方法**
- ① 5～10人のグループをつくり、輪になって向き合います。
 - ② ある子から、「私は〇〇〇が好きな△△△△です。」と自己紹介する。
 - ③ となりの子は、「私は〇〇〇が好きな△△△△さんの隣の×××の好きな□□□□です。」と自己紹介する。
 - ④ さらにそのとなりの子は、前の二人を合わせて自己紹介します。以下、あとの子ほど自分の前の人の分の紹介が積み重なって増えていきます。
 - ⑤ 最後の子まで済んだら終わりです。

- 留意点**
- ◇ 前年度から同じ学級の子同士は、できるだけ同じグループにならないようにします。
 - ◇ 前の人の紹介で言葉に詰まったら、他の人がジェスチャーでヒントを出してあげます。
 - ◇ 記憶することが苦手な子を、最初に自己紹介をする子に指名することも考えられます。
 - ◇ 「〇〇〇が好きな…」の部分は、「〇〇〇に行ってみたい…」などのアレンジができます。テーマを設けずに「〇〇〇な…」とする方法もあります。

2 質問じゃんけん

- 方法**
- ① 今までに同じ学級になったことのない子同士で2人組をつくります。
 - ② 教師の「始め」の合図でじゃんけんをして、勝った子が負けた子に対して一つ質問をし、負けた子がそれに答えます。
 - ③ またじゃんけんをして、勝った子が質問をします。これを繰り返します。
 - ④ 1分間たったら「やめ」の合図を出して終わります。
 - ⑤ 新たな2人組をつくり、同じように1分間行います。
 - ⑥ 10分間に3～4回程度行うことができます。



- 留意点**
- ◇ 2人組の組み方については、「同性と組む」「異性と組む」「今まで話したことがない人と組む」などの条件をつける方法もあります。
 - ◇ 質問の内容は、相手が答えやすい単純なものとするようにします。答えられないときや答えたくないときには「パス」してよいことにします。
 - ◇ 活動がスムーズに行われ、答える側の子が戸惑わないように、10項目ほどの質問リストを教師が用意し、子どもに配布しておく方法もあります。
 - ◇ 1分間の活動が終わったら、握手をして別れられるとよいでしょう。

3 4人1組他者紹介

- 方法**
- ① はじめに2人組をつくり、お互いに1分間ずつ自己紹介をします。
 - ② 他の2人組と一緒に、4人組をつくります。そして、それぞれ自分とペアを組んだ相手の子について、自己紹介で聞いたことをもとに、他方の2人に紹介（他己紹介）します。
 - ③ 抜けていた内容については、紹介された子がヒントを出します。
 - ④ 一方の2人組がお互いの紹介を終えたら、もう一方の2人組が、ペアを組んだ相手の子について、同様に紹介します。

- 留意点**
- ◇ 自己紹介・他者紹介の始めと終わりの合図は教師が出し、全体で一斉に行うようにします。
 - ◇ 自己紹介をする項目を10個ほど用意（板書する）しておき、その中からいくつかを選んで自己紹介するようにすると、内容に困らず、スムーズに実施できます。ペアの相手の子を紹介する際にも、質問項目のリストが示されていると思い出しやすくなります。
 - ※ 質問項目の例：出身小学校、前年度の組、通学方法、誕生月、血液型、飼っている動物、好きなスポーツ、よく見るTV番組、好きなタレント…

4 バースデーライン

- 方法**
- ① 全員が起立し、4月1日から3月31日までの誕生日の順に、一切しゃべらずに、身振り手振りだけを手がかりに一列に並びます。
 - ② 全員が並び終わったら、早く生まれた人から順に、自分の誕生日を発表していきます。間違えていた場合は、すぐに場所を入れ替えます。
 - ③ 全員の発表と確認・修正を終えたら、自分と誕生日が近い両隣の人と、続いて同じ月の生まれや同じ星座の人同士で握手をして終わります。

- 留意点**
- ◇ 「誕生日の順に」と言う前に、これから先は一切しゃべらないことをよく説明しておきます。
 - ◇ 一番先に生まれた人が立つ位置と、そこから並ぶ方向を示しておきます。
 - ◇ 星座の区切りは教師側から示します。3か月ごとに区切って、季節ごとにまとめる方法もあります。
 - ◇ 身長順に行う方法もありますが、気にする子がいるかもしれませんので、十分に検討する必要があります。
 - ◇ 生まれの早い遅いから「なるほど」と思えることがあるかもしれません。

5 じゃんけん名刺交換

- 方法**
- ① 名刺大の色厚紙（同性に渡すものと異性に渡すもの2色を各数枚ずつ）に、自分の名前とプロフィールを自由に書き、名刺を作成します。
 - ② 全員が立ち、教室を歩き回りながら、二人組になってじゃんけんをし、勝った人が負けた人に用意した名刺を1枚渡します。
 - ③ 相手を替えて次々にじゃんけんをしていきます。
 - ④ 自分の名刺が、同性用、異性用共にすべて渡しきったら上がりです。自分の席に戻り、着席します。



- 留意点**
- ◇ じゃんけんの相手は、1回ごとに替えるようにします。
 - ◇ 名刺の枚数は、全員が各色同じ枚数とします。学年にもよりますが、3～5枚程度が適当でしょう。
 - ◇ 2色の厚紙は、教師が事前に裁断して用意しておきます。名刺づくりは、各自が家で行うか、別に時間を設けるかのいずれかとします。
 - ◇ 記入する項目名や枠を印刷しておく方法もあります。
 - ◇ 性別に2色用意することで、じゃんけんの相手が偏らなくなります。

6 名前でビンゴ

- 方法**
- ① 4行×4列の16のマス目をかいた紙を全員に1枚ずつ配ります。
 - ② 全員起立し、教室内を自由に歩き回りながら、誰からでもよいので、16のマス目に名前を書いてもらいます。
 - ③ 16人の名前が書き終えた順に着席します。
 - ④ 次に、名前を書いてくれた人を探し、相手にその人の名前を○で囲んでもらいます。
 - ⑤ 16のマス目の縦、横、斜めのいずれかの1列で、4人の名前に○が並んだら上がりです。

- 留意点**
- ◇ ほとんどの子は、上記③でホッとしますが、実はそこからがこの活動のメインです。相手の名前と顔を早く正確に覚えるのに役立ちます。
 - ◇ マス目には、市松模様などに網がけを施しておき、名前を書いてもらう相手の性別を決めておく方法もあります。
 - ◇ 全員が上がらなくても、時間で終了させるようにします。2回目、3回目の実施を望む声上がるかもしれません。

7 この人はだれでしょう

- 方法**
- ① 趣味や特技、飼っているペットなどのいくつかの項目を記載したプロフィール用紙を作成しておきます。
「私の趣味は、_____。」のような形式にします。
 - ② 全員にこれを配り、各自が記入後、回収します。
 - ③ 全員のプロフィール用紙の中から1枚をランダムに選び、記載された内容を読み上げます。そして、これがだれのものかを皆で考え、言い当てます。
 - ④ 1回に数名分、何回かに分けて行い、その後は教室内に掲示します。

- 留意点**
- ◇ プロフィール用紙の項目は、3～5項目程度の簡単なものとします。
 - ◇ 記載した内容は、皆に発表することをあらかじめ伝えておきます。
 - ◇ 学級の全員が、順に1枚ずつプロフィール用紙を選び、読み上げる方法もあります。1回10分間の活動で、数名ずつ行えるでしょう。
 - ◇ だれのプロフィールかを近くの4人組で考え、グループとしての答えを発表し、正答数を競う方法もあります。その場合は解答用紙を用意します。
 - ◇ 学級編制替え後の場合は、名前を記載した座席表を配っておきます。

8 出身小学校・学級PR

- 方法**
- ① 前年度、同じ学級であった子同士が集まります。
 - ② その学級がどんな学級だったかを、一人ひと言ずつPRしてもらうことを伝え、3分程度話し合わせます。
 - ③ 時間がきたら、全員が一度自分の席に戻り、着席します。
 - ④ 発表では、各自が今年のこの学級がどんな学級になれたらいいかを併せて発表してもらうことを伝えます。
 - ⑤ 教師が指名した学級順に前に出て横1列に並び、一人ずつ発表します。
 - ⑥ 数回に分けて行い、全員（全学級）が発表します。

- 留意点**
- ◇ できるだけよかった点を中心に発表させるようにします。
 - ◇ 出身学級ごとに集まった子や話し合いの様子を注意深く観察して、最初に発表させる組をどこにするか考えます。最初の発表がそれに続く組の発表に影響を与えるからです。
 - ◇ 他地区からの入学生であるなど、一人しかいない子がいる場合は、その子についての申し送り事項について確認しておく必要があります。

9 どっちが好き・似た者同士

- 方法**
- ① A5判程度の白紙を全員に配ります。
 - ② 教師が、「これから言う2つのうち、好きな方を紙に書いてください。」と言い、5つ程度のことがらについて、二者択一で選ばせます。
例) 山と海、春と秋、犬と猫、赤と青、TDLとTDSなど…
 - ③ 各自、好きな方を紙に書きます。考え込まずに直感で答えさせます。
 - ④ 全員起立し、3つ以上の項目が同じである人を探し、見つけたら相手の名前と同じであった数を書きます。または書いてもらいます。
 - ⑤ 3～5分程度行い、その後着席します。
 - ⑥ 全項目が同じだった人がいるか、4項目は…ときいていきます。

- 留意点**
- ◇ 別れ際に握手をするのもよいでしょう。
 - ◇ 同じだった数が多い男子と女子がいた場合に、冷やかしやからかいなどにつながらないように留意が必要です。
 - ◇ 人の好みはそれぞれであってよいことは、よく押さえておきます。
 - ◇ この活動は、教師自身も加わることもできます。



10 先生への何でもメッセージ

- 方法1**
- ① A5判程度の白紙を全員に配ります。
 - ② そこに、自分の名前と教師へのメッセージを自由に書いてもらうこと、皆の前で読み上げたり、貼り出したりしないことを伝えます。
 - ③ 5～6分程度の時間をとって書かせた後、回収します。
- 方法2**
- ① 文章の書き出し部分を数項目記した用紙を配ります。
例) 私が大事にしているものは、_____。
私が心配していることは、_____。
 - ② 方法1の②と同じことを伝えます。
 - ③ あまり考え込まずに、思いついたことを各自が続けて書きます。

- 留意点**
- ◇ 短時間なので、書きなぐりでもよいこととします。文章以外のマンガやイラストなど、書き方には制約をつけないこととします。その方が、その子の理解に結びつきます。
 - ◇ 集めたメッセージは、個別の声かけに活かします。カードなどで、メッセージのお返しをするのもよいでしょう。

11 先生についてのYES・NOクイズ

- 方法**
- ① 教師自身の自己紹介を、クイズ形式で行うことを伝えます。
 - ② あらかじめ、数問程度の問いを用意しておき、1問ずつにイエスかノーかで全員に考えさせます。
その都度の挙手で答えても、用紙を配って○×を記入させ、最後に答え合わせをしても、どちらでも構いません。
例)「先生は中学生のとき、試験の朝に家族全員で大寝坊をしたことがある。」
 - ③ 全問正解者など、挙手または起立してもらい、拍手を送ります。
 - ④ 問いの内容について、補足的な話をします。

- 留意点**
- ◇ 問いの内容は、学校での姿からは分からないような、プライベートな内容や、かつて中学生だったころのエピソード的な内容がよいでしょう。子どもたちにとって親近感が感じられます。
 - ◇ 家庭や家族のことに触れる場合は、様々な境遇の子がいることに十分配慮することが必要です。楽しい話題のはずが、特定の子の心を傷つけることにならないように留意します。

12 先生へのYES・NOインタビュー

方法1 ① 子どもが先生について知りたいことを、一人ずつ順に質問をし、教師がそれに「はい」か「いいえ」のいずれかで答えていきます。

② 答えにくいことや、答えたくないことは、パスしてよいこととします。

方法2 ① 先生への質問項目を4人組のグループで6～7問考えます。

② 1人ずつ、またはグループの代表が、グループ内で考えたことの中から決められた数の質問をしていき、教師が方法1と同様に答えます。

- 留意点**
- ◇ 質問は、イエスかノーで答えられるものとするを事前に伝えます。
 - ◇ 質問内容が前の人やグループと重複した場合に備え、やや多めに用意しておくようにします。
 - ◇ 教師が「パス」することが、質問した子との関係に障るものではないことを伝え、安心させるようにします。そのためにも、「パス」するときの言い方や表情が重要です。
 - ◇ 方法2では、質問をする子が、その質問を考えたとは限らないので、気遣いをするタイプの子も気軽に取組めます。

おわりに

これらは活動のほんの一例であり、他にもアイデア次第で様々な活動が考えられます。また、今回紹介した活動にアレンジを加えることも自由です。

年度始めは、1年の間で最も忙しい時期であるため、なかなか一人一人にまで目が向きにくいことがあるかもしれませんが、この時期の人間関係づくりは、不登校の未然防止の点からも、極めて大切なものといえます。

たとえ短時間であっても、ここに挙げたような活動を日常的に行うことができれば、子どもたちにとって学校がより楽しく、居心地のよい場になることでしょう。

小学校では、こうした活動が多く教師の手によって比較的行われており、子どもたちも慣れ親しんでいると聞きますが、中学校での取組は少ないのではないのでしょうか。

「中学校は小学校とは違う!」「そんなことをする時間はない!」と思われるかも知れませんが、子ども一人一人は小学生から連続した時間の流れの中にいます。

中1ギャップを埋めるために、ぜひ実践してみてください。



平成20年4月

宇都宮市教育センター / 不登校の中1ギャップ対策プロジェクト